

令和2年度第1回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和2年6月15日（月）午後1時30分から午後3時まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、高齢者福祉課長補佐、地域支援係長（司会）、担当主事
場所	やすらぎ会館5階 大集会室
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉課長補佐から挨拶 ・ 委員の紹介 <p>2 議事</p> <p>(1) 令和元年度政策提言の内容</p> <p>【資料1】「提言書」を基に事務局から説明。</p> <p>〈説明内容〉</p> <p>本会議体は、今年度より委員の皆様からの意見を施策や生活支援コーディネーターの活動に反映させるために議論の場としていく。</p> <p>令和元年度は「つながりを継続し、生み出す高齢者施策～住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために～」という提言をいただいております、地域課題に共通するテーマである地域の「つながり」を継続生み出すために、担い手・移動・居場所の支援を進めていく。</p> <p>(2) 令和2年度生活支援コーディネーター活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活支援コーディネーターについて <p>〈説明内容〉</p> <p>生活支援コーディネーターは、地域の困りごとの把握、地域資源の周知、ネットワークの構築等の活動をしている。平成28年度から瀬戸市全域を担当する第1層生活支援コーディネーターが配置され、平成30年度からは日常生活圏域を担当する第2層生活支援コーディネーターが3圏域の地域特性の異なる地域（ふたば、品野、中央東圏域）に配置された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度生活支援コーディネーター活動計画 <p>【資料2】「活動計画 案」を基に生活支援コーディネーターから説明。</p> <p>〈説明内容〉</p> <p>①ふたば（第2層）：高齢者や住民同士のつながりが希薄化の課題があるが、企業や店舗（スーパー・薬局等）、個人宅・自治会が行っている居場所等の資源が多い地域。</p> <p>企業や店舗と連携し、住民同士がつながりを持って生活できる地域を目指し、企業等の資源や住民のニーズ調査から、企業と地域のマッチングやモデル事業の検討を行う。4年間でモデル事業の実施まで進める計画。</p> <p>②しなの（第2層）：地域が広い日頃の買い物等の移動が課題となってい</p>

るが、地域の繋がりが強く、地域団体や企業・店舗などの資源がある地域。

買い物・移動への困りごとを解決し、住民が社会参加できる地域を目指し、地域活動等の資源や住民ニーズの調査から、地縁団体・関係機関との連携を強化し、モデル事業の検討を行う。4年間で地域の様々な団体が連携した事業の実施・評価まで進める計画。

③中央東（第2層）：独居高齢者の孤立化が問題となっており、独居の認知症の方の発見が難しく、つながりや見守りや支えあいが必要だが、地域団体や商店街、ボランティアなどの地域資源がある地域。

独居高齢者の孤立を防ぐために支えあう地域を目指し、独居高齢者や地域資源の把握から、地縁団体との連携強化、地域活動の担い手の発掘・マッチングを行う。4年間で独居高齢者の孤立、早期発見、対応につなげる体制づくりまで進める計画。

④瀬戸市全域（第1層）：各地域包括支援センターが行う地域ケア会議から、地域住民への認知症の理解不足や独居高齢者の増加に伴う地域のつながりの減少が課題としてあげられた。

第1層では孤立にさせない地域でのつながりの構築を目指し、地域資源の活動把握や継続支援に加え、基幹型地域包括支援センターと連携し、グーグルマップを活用した地域資源のマップ作りを行い「見える化」を図る。また、市の移動支援事業に向けての協力や第2層のモデル事業のサポートを行い、スムーズな事業化に向けて働きかける。令和5年では、第8期計画期間での実施事項を地域住民や地縁団体、企業等に報告する場を設けるところまで進める。

〈質疑応答〉

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ] から意見。

- ・ 具体的な活動計画を知りたかった。
- ・ 地域資源は、本来はすでに把握している必要がある。また、地域資源のマップ化は、現在活用されている団体と協力してすぐにでも進めていく必要がある。
- ・ 独居高齢者等、本当に支援が必要な人の意見は、居場所や窓口では聞けないこともあるため、具体的な聞き取り等の方法を検討してほしい。

[第1層生活支援コーディネーター] より回答。

- ・ マップ化はカテゴリーや見え方などを現在検討しており、地域の人が必要としている情報を確認しながら進めていく予定。皆様から必要な情報があれば教えていただきたい。

[瀬戸市シルバー人材センター] から意見。

- ・ シルバー入会者も、年齢を重ね、今までできていたことができず退会してしまい、退会することで社会とのつながりが切れてしまうこともある。つながりが切れないように、会員が活躍できる様々なメニューを用意し、趣味等

を活かしながら生きがいが見つけられるように、5年先までの実施をめどにコーディネーター等他機関とも協力しながら検討していきたい。

[瀬戸市民生委員児童委員協議会] から意見。

- ・ 生活支援コーディネーターの活動は、できるところから順次進めていけば良い。
- ・ 居場所せとらカフェ等の居場所も自治体単位でできるようになると良い。
- ・ 居場所では、参加者が固定化をしているところが目立つ。
- ・ 地域住民同士のつながりの拠点となるものがあると良い。
- ・ 一番の問題は買い物の支援。特に山口では行く場所や公共交通機関が少ないため、少しでもバス等が運行される体制を作ってほしい。

(3) 令和2年度瀬戸市施策の方針

【資料3】を基に事務局から説明。

昨年度の政策提言の内容でも取り上げられていた通り、つながるための「居場所」「移動」「担い手」の施策について」説明

・ 居場所

【参考資料1～3】を基に事務局から説明。

居場所については、①身体状況にかかわらず幅広い層の高齢者を対象にしている「サロン・まごころ」②認知症の当事者やその家族、地域住民等を対象にしている「せとらカフェ」③地域の比較的元気な高齢者を対象にしている「よりどころ」を中心に、地域とのつながるための施策を進めていく。

また、これらに共通する課題については、参加者の固定化や男性参加者が集まり難いことがあり、居場所が広く周知できていないことが考えられる。

〈質疑応答〉

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ] から補足説明。

- ・ まごころでは、サロン・まごころ以外にも、常設の居場所として「ぷらっと」を行っている。「ぷらっと」では、子供から高齢者まで誰でも集まることができ、高齢者でも指導者となって活躍し一緒に楽しむことができる。このような場所が様々な地域や場所いできるようなになると良い。

[瀬戸市社会福祉協議会] から補足説明。

- ・ 社協では「よりどころプロジェクト」を行っており、地域の居場所に補助が出せるため、PRをお願いします。

[委員長] の総括。

- ・ 様々な居場所を瀬戸市としても広く周知してほしい。

・ 移動支援

【参考資料4】「瀬戸市高齢者総合計画実態調査報告書」を基に事務局から説明。

高齢者移動支援推進事業は、令和2年度から愛知県と本市で3か年にわたり実施する事業。孤立しがちな独居高齢者の方に向けた移動支援の在り方を検討し、免許返納後の買い物・外出機会がない方の外出機会の創出を目指す。

8期計画に向けた移動支援のアンケートでは、一般の人は自動車で移動する人が多いが、要支援者は自分で運転し移動できなくなることに伴い、外出頻度少なくなり、地域とつながる機会が減る。

これらの結果を踏まえ、本市では、外出機会の創出のために、デイサービス等の空いている車両を使い、食事・買い物などのツアーを定期的実施することで、孤立を防ぎ、外出目的を作る。今年度は事業内容を計画し、来年度から実証実験を行う予定。

〈質疑応答〉

[瀬戸市民生委員児童委員協議会] から意見。

- ・ 富山県氷見市では、事故保険等を社協負担で1回につき200円ほどで実施していた。本市でも万が一のことを考慮し、実施していくと良いのではないかと。

- ・ 担い手

【資料5～7】を基に事務局より説明。

高齢者の担い手を育成する「元気高齢者サポーター養成講座」では、高齢者が働くことで地域との交流が増え、つながりを生み出すことが期待できる。今年度は、国も介護人材の確保を課題ととらえているため介護施設での援助員の育成を予定している。

認知症施策である「チームオレンジ」では、認知症当事者やその家族が地域とつながる仕組みを整備する。認知症地域支援推進員を中心に、担い手として動く認知症サポーターの養成や支援内容・他事業（せとらカフェ等）との連携を行い、令和3年度からの実施を予定している。

〈質疑応答〉

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ] から意見。

- ・ 担い手は誰でもなることができるが、自分自身も楽しむことが重要。「好きなことをやる」ことが担い手不足解消につながる。直接本人に好きなこと聞き、つなげていくことが大切。また、近くでできる人を探していくことも必要。

3 その他

事務局より今年度の会議の案内。第2回は10月、第3回は2月開催を予定。

4 閉会